



福島さあいべ！

福島スタディツアーにご参加の皆さん、ようこそ福島へ！この福島スタディツアーは、東日本大震災からまもなく14年が経過する中、原発事故がもたらした悲惨さを現地で学び、核と人類は本当に「共存」できるのか、もし自分の街に原発があったら？その原発が事故を起こしたら？少しでも福島の現状を「他人事」から「自分事」へと、みなさんと一緒に考えていく。そんな集会です。3日間ともに頑張りましょう！

開催地 福島県本部より歓迎のメッセージ ～青年部副部長 浜名さん～



東日本大震災から間もなく14年が経過しようとしておりますが、年々被災地の状況が報道されることが少なくなっていると感じます。そういった中スタディツアーを継続して開催いただいていることに感謝申し上げます。

さて、東日本大震災の被災地の多くは全国からの支援のおかげもあり概ね復興が完了しております。しかしながら、原発事故により避難を余儀なくされた自治体では、ようやく一部地域で避難指示が解除され復興が始まった状況です。参加者の皆様には、今集会を通して、原発事故当時のこと、現在の状況、今後の復興のことなどを学んでい

だき、各県本部、各単組に、持ち帰っていただければと思います。

また、福島県には美味しい食べ物と地酒があるので、2日目の夜はお誘い合わせのうえ福島市内に繰り出して県を越えた交流をしていただければ幸いです。

本部基調提起 ～集会に参加するにあたって～

この「福島スタディツアー」に参加するにあたっての前提知識、どのような視点をもって臨んでもらいたいか、などについて提起しました。

原発が誘致されることによって地域に雇用が生まれ、貧困が解消につながることから危険だと知りながらも反対することができず、安全神話が作られていきました。しかし、原発事故が発生したことによって安全神話が崩壊しました。事故以降に住民は自分の住んでいた地域を奪われ、災害関連死も年々増加している現状

があります。自治体労働者は事故後、過酷な労働を強いられ、早期離職が増加している。しかし、政府は事故後の熟議もないまま、原発を最大限利用しようとするエネルギー政策が進められており、電源立地や文献調査を受け入れることによって交付金が支給され、再び反対する動きが作りにくくなっています。今の現状を「一人の人間」や「自治体労働者」として率直に思ったことを仲間と討論することで「他人事」から「自分事」に捉えられるような集会にしよう。



参加者の意気込み♪

北海道本部、帯広市職労の野川千万さんから意気込みいただきました！



ずっと気になっていた福島スタディツアーに、やっと参加することができました。

これまでは、正直単に興味がある程度でしたが、昨年9月に北海道平和友好祭典、11月に新地層研究センターのある幌延町での11.23幌延デーに参加し、現地を訪れて学ぶ重要性を実感しています。また、遠いまちの話題ではなく、自分たちの仕事への影響、暮らしている街や北海道の未来を考えるきっかけになっています。

北海道では現在、寿都町と神恵内村で核ごみの受け入れに関する文献調査や概要調査の話題ですが、当事者である町の中ではタブー視された話題になっていたり、賛否で町民が分断されている現状があります。一方で、同じ北海道に住んでいても、同じ地域の問題だと捉えられない、そもそも何が起きているかを知らない青年がたくさんいます。

今回の現地での学びから、原発や平和に対する自分の考えを見つめ直すとともに、北海道へ持ち帰り、仲間と一緒に話し合うきっかけにしたいと思います。

参加者の意気込み♪

鹿児島県本部、鹿屋市職労の堂込至恩さんから意気込みいただきました！

太平洋から吹き込む冷たい風に迎えられた仲間の皆さん。

大隅半島の鹿屋市から参りました、鹿児島県本部青年部書記長の堂込至恩です。よろしくどうぞ～。

私は鹿児島県で生まれ育ち、昨今の激甚災害には見舞われずにおります。被害に遭った方に思いを馳せることが少なかった人間です。しかし、こんな私でも好きなものがあります。それは小説や映画です。私の心をいつも温めてくれる道標でした。米津玄師の『地球儀』は、映画『君たちはどう生きるか』の主題歌で、映画を見た私の心を捉えて離しませんでした。「瓦礫を越えていく」という歌詞は、多くの尊い命を奪った、あの日のことを示唆したものだったのでしょうか。

私たちは公務労働者であり、個人や資本の利潤よりも、他者の文脈や仲間のことを思い起こさずにはいられない立場にあります。私も直接の被害は受けていないにせよ、少なくとも肌で実感し、知る必要がある。誰かの創作物に触れる度に思ってきました。縁あって、福島の実状を知ることができるこの機会に、「無関心でいることをやめよう」と思い立ち参加しました。鹿児島県は国防の要所です。自衛隊や武器庫、川内原発があるにもかかわらず、青年部全体の実感としては賛成反対無関心。「実感に欠けている」のが共通課題です。この機会に、実感に裏打ちされた学びを県に持ち帰ろうと考えています。皆さん共にがんばりましょう。



★交流会の1コマ★

楽しい楽しい交流会の時間もあつという間…。
今日も飲みすぎ注意ですよ！

